

参考資料

2015年度 業績の概要

2016年5月16日
ソニー銀行株式会社

損益の状況(1):財務会計ベース

<連結・単体>

金額は億円未満切捨て、%は四捨五入で表示
(億円)

<連結>

●業務粗利益

前年度比5億円減少の243億円。
住宅ローンは好調に推移したものの、債券売却益が減少。

●経常利益

同13億円減少の59億円。
新カードローンへの先行投資に係る営業経費の増加もあり、減益。

●親会社株主に帰属する当期純利益

同6億円減少の39億円。

<単体>

●業務粗利益

同8億円減少の216億円。
住宅ローンに係る手数料収入の増加により役務取引等収支は改善したものの、債券売却益の減少によりその他業務収支が減少。

●経常利益

同14億円減少の58億円。

●当期純利益

同7億円減少の39億円。

	<12ヶ月累計>	2014年度	2015年度	前年度比	
連結	業務粗利益	249	243	△5	△2.4%
	経常利益	73	59	△13	△18.3%
	親会社株主に帰属する当期純利益	45	39	△6	△14.8%

単体	業務粗利益	225	216	△8	△3.9%
	資金運用収支	166	165	△1	△0.8%
	役務取引等収支	0	1	+1	+448.7%
	その他業務収支	58	50	△8	△14.6%
	営業経費	153	159	+6	+4.2%
	業務純益	72	57	△14	△19.6%
	経常利益	72	58	△14	△19.8%
	当期純利益	46	39	△7	△15.6%

損益の状況(2): 社内管理ベース

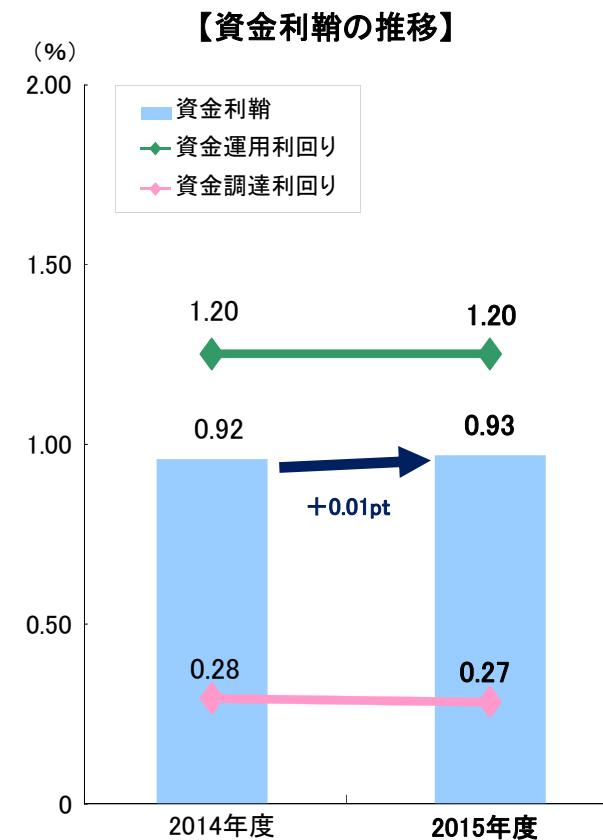
< 単体 >

- コアベース業務粗利益は住宅ローンが好調に推移したことから、前年度比5億円増加の197億円。
- 資金利鞘は0.93%と一定の水準を確保。

(億円)

<12ヶ月累計>	2014年度	2015年度	前年度比	
業務粗利益	224	216	△8	△3.8%
資金収支*1①	182	188	+5	+3.0%
手数料等収支*2②	9	9	△0	△1.6%
その他収支*3	32	18	△13	△43.0%
コアベース業務粗利益(A) = ①+②	192	197	+5	+2.7%
営業経費等③	152	159	+6	+4.5%
コアベース業務純益 = (A) - ③	40	38	△1	△3.8%

金額は億円未満切捨て、%は四捨五入で表示



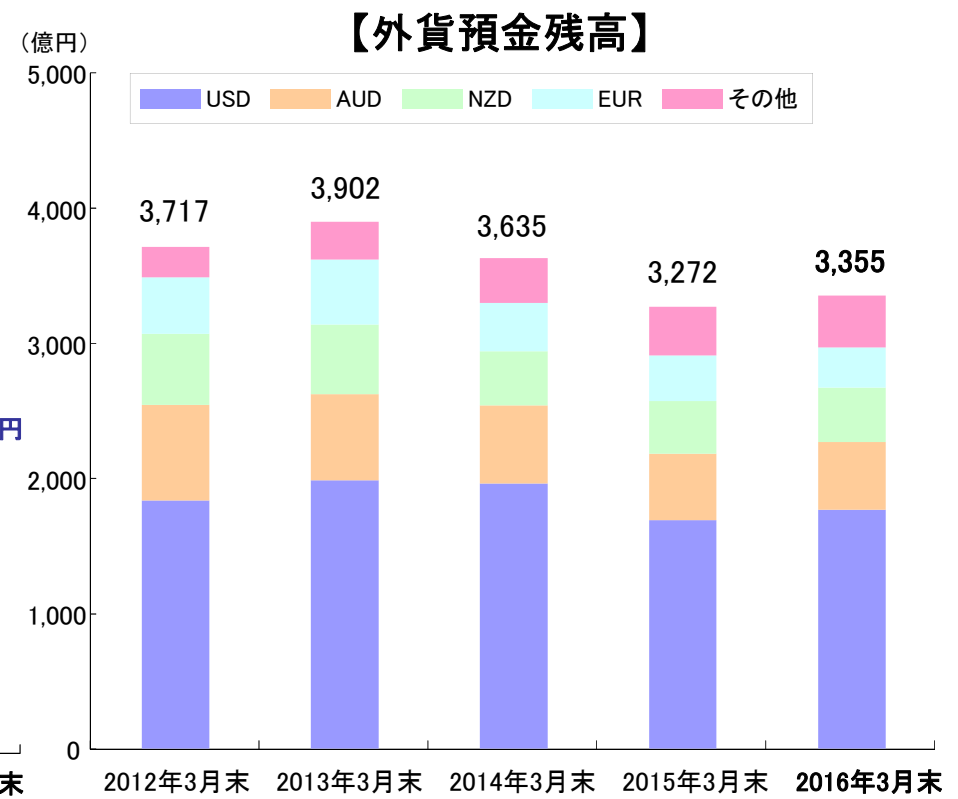
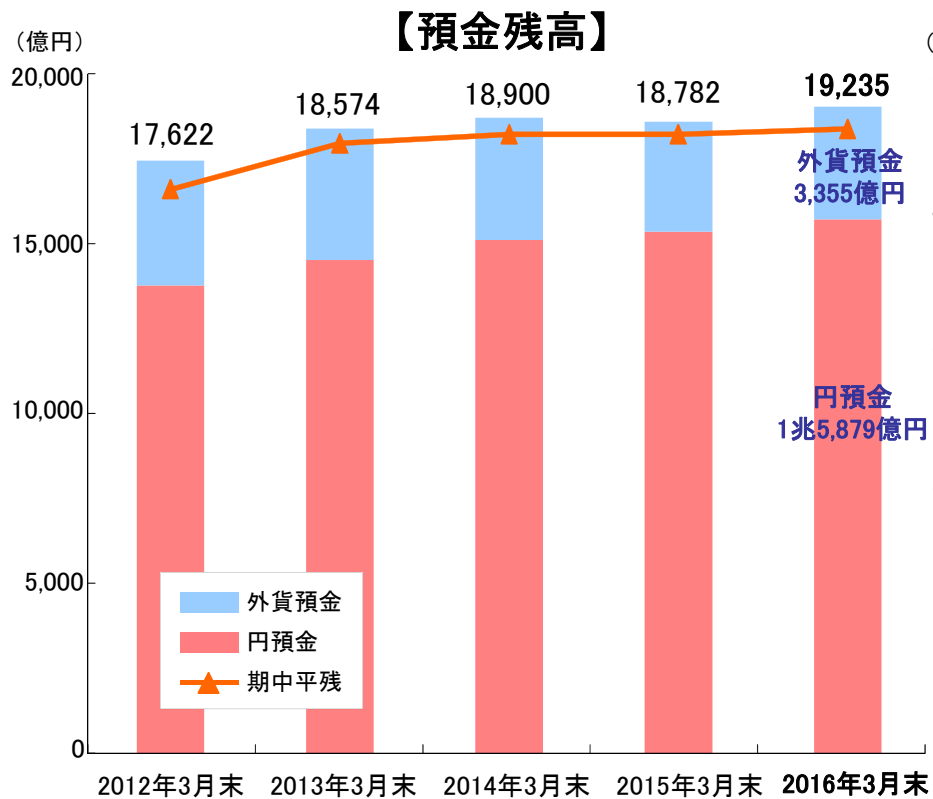
- 社内管理ベース 損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの
 - *1 資金収支…資金運用収支+その他業務収支に計上されている実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)
 - *2 手数料等収支…役員取引等収支+その他業務収支に計上されているお客さまとの外貨売買取引にかかる収益
 - *3 その他収支…その他業務収支より*1と*2の調整分を控除したものの。主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益
- コアベース 社内管理ベースのその他収支(主に債券関係損益およびデリバティブ関連損益)を除いたもので、当社の基礎的な収益を表すもの

預金の状況

<単体>

- 預金残高は前年度末比452億円増加の1兆9,235億円。
円預金は下期において特別金利を提示した定期預金が伸び、残高増加。
外貨預金は円安の一巡で外貨購入が進み、残高増加。「Sony Bank WALLET」の開始以降、外貨預金の口座開設も増えている。
- 2016年3月末の預かり資産残高(預金+投資信託)は2兆334億円。口座数は113万件。

金額は億円未満切捨てで表示

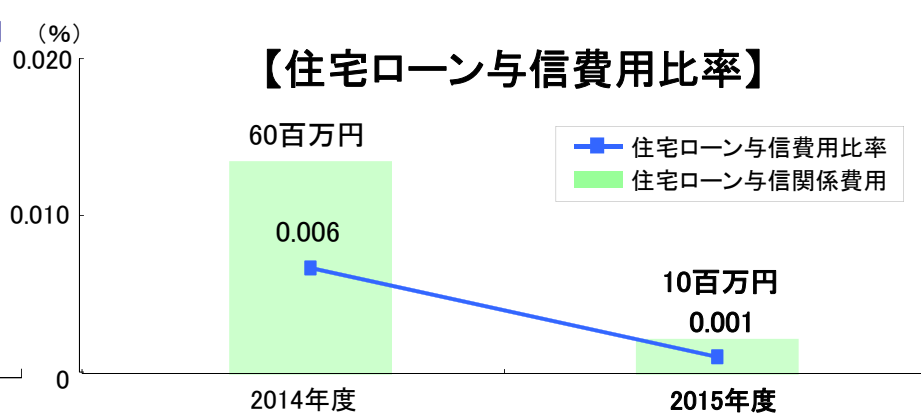
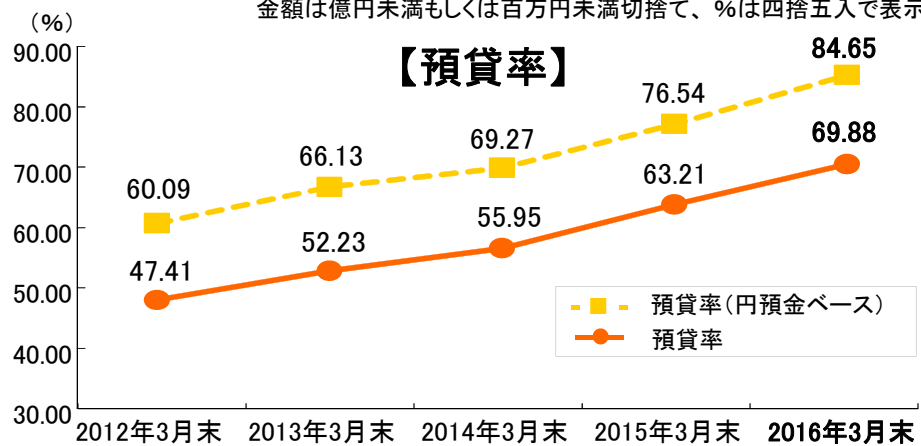
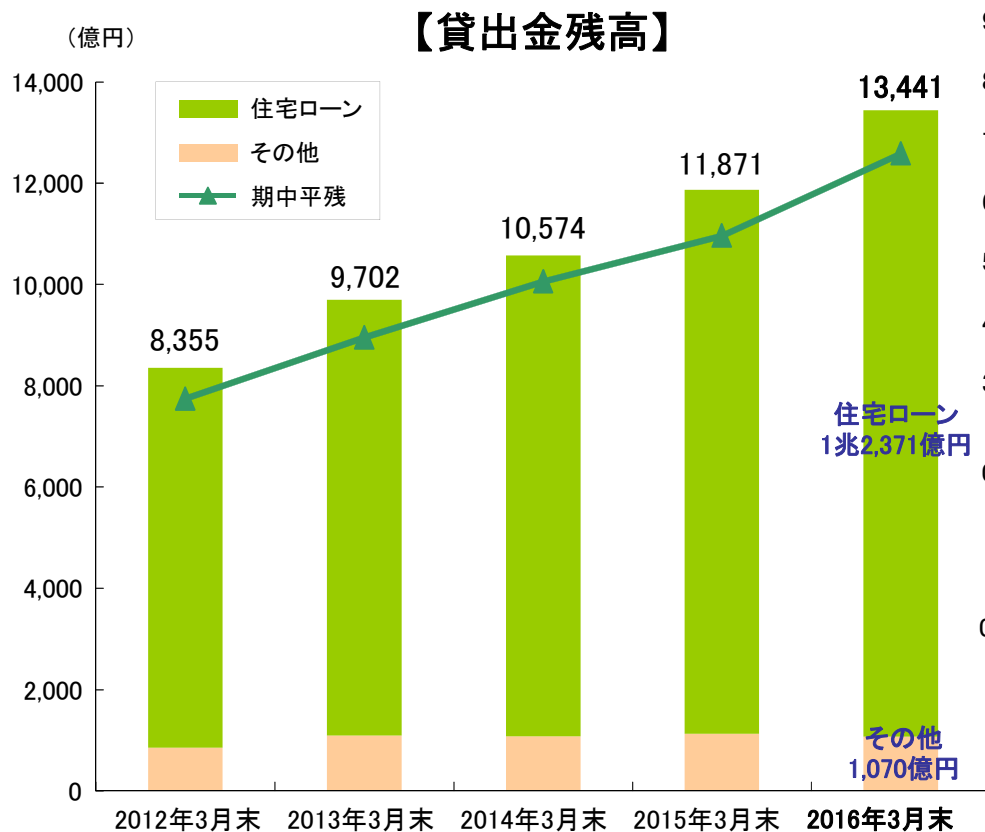


貸出金の状況

<単体>

- 貸出金残高は住宅ローンが好調に拡大し、前年度末比1,569億円増加の1兆3,441億円。預貸率は69.88%と着実に向上。
- 住宅ローン与信費用比率は引き続き低水準を維持。

金額は億円未満もしくは百万円未満切捨て、%は四捨五入で表示



● 住宅ローン与信費用比率 = 住宅ローン与信関係費用 ÷ 住宅ローン平残
 ● 住宅ローン与信関係費用 = 貸出金償却(住宅ローン) + 貸倒引当金繰入額(住宅ローン)

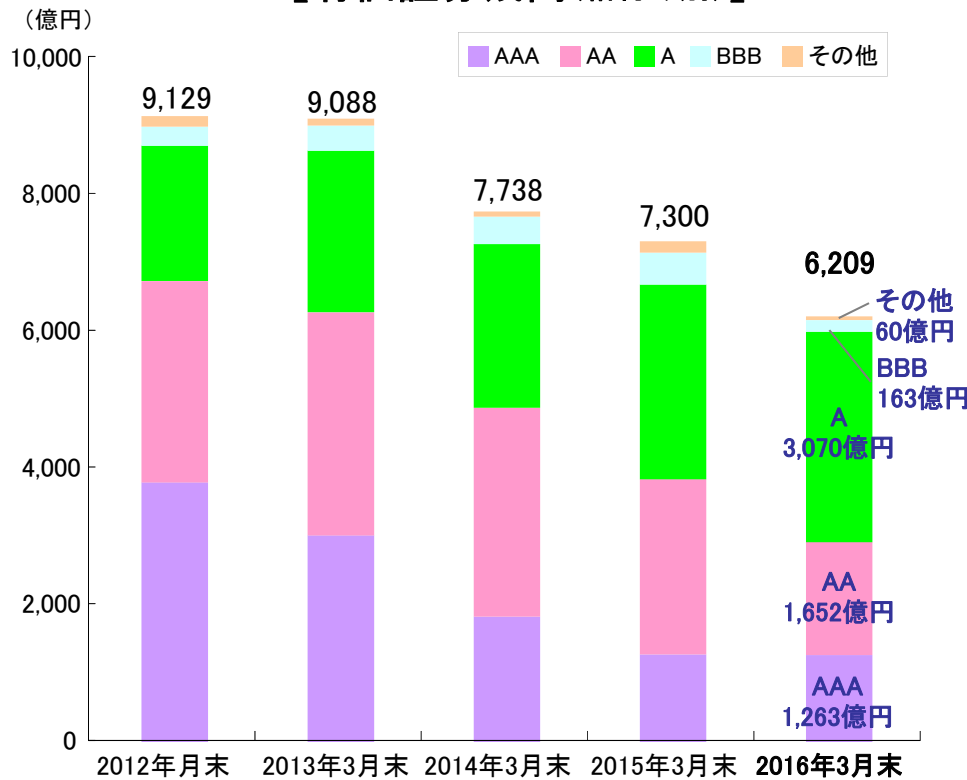
有価証券の状況

< 単体 >

- 有価証券は高格付けの債券で安定的に運用。引き続き、AAA～A格の債券が全体の9割強を占める。残高は前年度末比1,090億円減少の6,209億円。
- その他有価証券評価差額金(税効果会計適用前)は41億円。

金額は億円未満切捨てで表示

【有価証券残高(格付け別)】



【その他有価証券の内訳】

(億円)

	2015年3月末	2016年3月末
債券	2,390	1,756
国債	749	735
地方債	566	378
社債	1,074	643
その他	4,806	4,359
外国債券	4,761	4,310
その他の証券	45	48
合計	7,196	6,115
< その他有価証券評価差額金 (税効果会計適用前) >	< 87 >	< 41 >

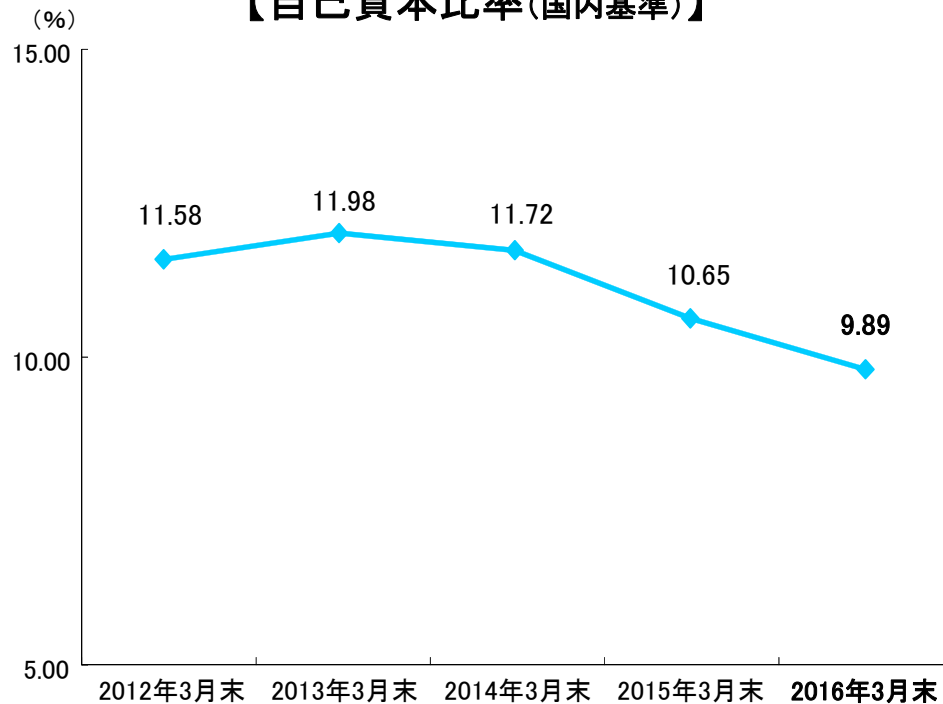
※時価のあるその他有価証券の貸借対照表計上額内訳
 貸借対照表の「有価証券」のほか、「買入金銭債権」中の信託受益権を含めて記載
 その他有価証券評価差額金(税効果会計適用前)の金額は億円未満四捨五入で表示

自己資本比率・格付け情報

<単体>

- 自己資本比率は9.89%と健全な水準を維持。

【自己資本比率(国内基準)】



※平成18年金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出。なお、2014年3月末より、バーゼルⅢベースへ移行。

【格付け(2016年3月末現在)】

スタンダード&プアーズ	
長期カウンターパーティ格付け「A」	アウトルック「安定的」
短期カウンターパーティ格付け「A-1」	
日本格付研究所	
長期発行体格付「AA-	見通し「安定的」

営業経費の内訳・預金経費率の推移

<単体>

- 営業経費は新カードローンへの先行投資に係る広告宣伝費が増加し、前年度比6億円増加の159億円。
- 預金経費率は地方銀行平均に比べ低い水準を維持。

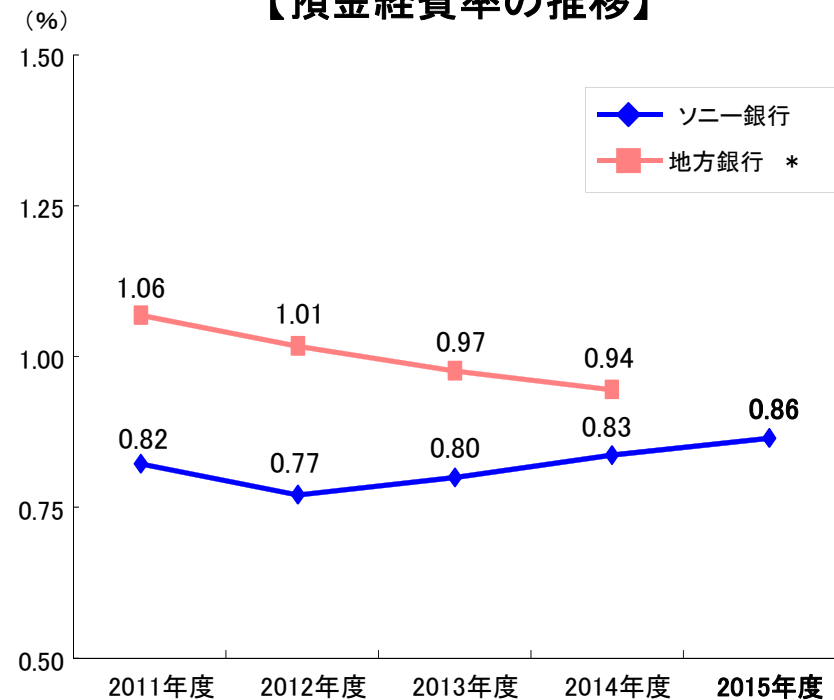
金額は億円未満切捨て、%は四捨五入で表示

【営業経費の内訳】

	(億円)			
	2014年度	2015年度	前年度比	
営業経費	153	159	+6	+4.2%
システム関連費用	47	47	+0	+0.7%
人件費	43	42	△0	△1.3%
広告宣伝費	9	19	+9	+96.9%

※システム関連費用は減価償却費、保守管理料など。

【預金経費率の推移】



$$\text{預金経費率} = \text{営業経費} \div \text{預金} \cdot \text{譲渡性預金} \cdot \text{債券平残}$$

* 出所: 全国銀行協会「全国銀行財務諸表分析」

2015年度の主なサービス拡充施策

● 外貨預金・FX～外貨をもっと自由に～

- ・11通貨対応のVisaデビット付きキャッシュカード「Sony Bank WALLET」のサービスを開始(2016年1月)
- ・より多くのお客さまに優遇特典をご利用いただけるよう外貨預金優遇制度をバージョンアップ(2016年1月)
- ・FXについて、取引通貨ペアの拡充や取引画面の刷新などによるリニューアルを実施(2015年6・11月)
- ・外貨送金(被仕向け送金)の受け取り手続きをWeb化(2015年10月)

● 円預金・投資信託～商品ラインアップを強化～

- ・募集方式の満期日繰り上げ特約付き仕組み預金「円定期plus+」の取り扱いを開始(2015年6月)
- ・NISAでもご利用いただけるファンドを計23本追加(2015年8・11月)
- ・ジュニアNISA口座開設の申し込み受付を開始(2016年2月)

● ローン商品～お客さまの多様な資金ニーズに対応～

- ・インターネットで契約手続きが完結する新たなカードローンの取り扱いを開始(2015年7月)

● その他のサービス～より便利にご利用いただくために～

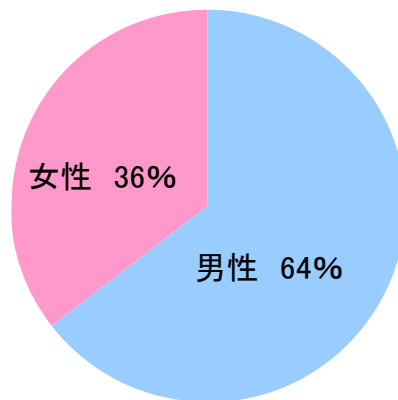
- ・スマートフォンサイトの取引メニューを拡充し、積み立て定期預金や暗証番号の再設定手続きなどに対応(2015年8月)
- ・「ご家族・ご友人紹介プログラム」開始。所定の条件を満たすとソニー銀行を紹介したお客さまと紹介を受けた方に現金をプレゼント(2015年11月)

《ご参考》お客さまプロフィール(2016年3月末)

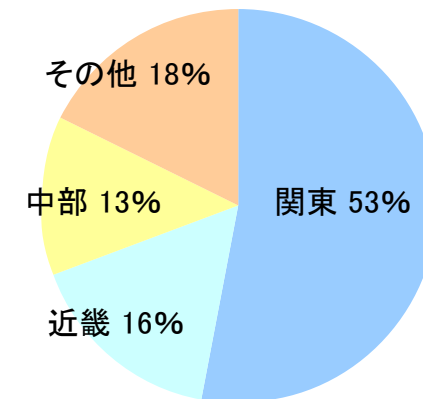
- 主なお客さまは、東京・大阪・名古屋の大都市圏を中心とした、30代～50代のビジネスパーソン。

%は四捨五入で表示

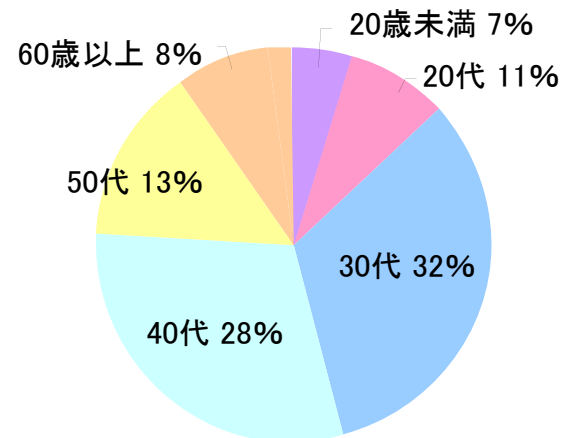
【性別比】



【地域分布】



【年代構成】



※四捨五入の影響等により、合計が100%にならないグラフがあります。